

「徳」：自分に自信・友だちに思いやりをもつ子どもの育成《3学期の取組の検証と次年度に向けて》

取組指標	取組指標の進捗状況
①毎月生活研を実施し、子どもたちの実態と指導の方向性を共通理解し、全職員で指導を行う ・ 学級担任は、行事等の場面を想起させて振り返りや意欲づけを実践 ・ 担任以外は、各自の持ち分の場面で気づいたこと等を担任へ必ず連絡する	◇アンケート結果より ・生活研の中で子どもとらえを確実に伝え共通理解を図る → 84% (82%) ・生活研をうけて担任が月一回程度のSST等を実践 → 63% (71%) ・共通理解したことを指導に生かす → 85% (86%) * 3学期の短さと行事の集中の中で、SST等の実施の余裕があまりなかった ・縄跳び大会、6年生を送る会、児童集会活動で、事前のめあて確認と事後の振り返りが100%実施できた
②学級担任は、各学級の一日のどこかの場面で、「よいところ見つけ」を実践する ・ 取組のマンネリ化を防ぐために、「どんな視点で見つけるのか」「見つけ方の視点の違い」等を教師が意図的に見せながら指導していく)	◇アンケート結果より ・一日のどこかで「よいところ見つけ」を実践する → 90% (94%) * 各クラスで、マンネリ化を防ぐための工夫・実践ができた
③生活目標をもとに児童会で「なかよしめあて」「あいさつめあて」を立てさせ、担任は学級の実態に合わせてその具体化に取り組む ・ 各学年の具体的なめあてを掲示し、担任以外は各自の持ち分の指導に生かす ・ 各学年の具体的なめあてには、できるだけ、「友だちの頑張りの認め」「言葉遣い」を入れる	◇アンケート結果より ・ 具体的なめあてを掲示し、指導に生かす (担任) → 90% (94%) ・ 各自の持ち分の指導に生かす (担任以外) → 78% (75%) * 「友だちの頑張りを認める」「相手の気持ちを考えた言動をする」について、毎月のめあてに入れて、取組と振り返りをさせることができた 教職員各自の、持ち分での具体的な指導が定着してきた
《家庭》 ④PTAが主体となって、学期に1回各家庭で「生活リズムがんばり表」を使って、子どもたちの生活習慣の実態把握・分析・改善すべき点の提案を行い、生活習慣の見直しを促進する	◇教師の見取りより ・ 児童の実態把握と分析の上で、情報機器の扱いとそれに伴う睡眠の問題点について指導し、PTAの懇談でも話題にすることができた ◇保護者アンケートより ・ 年齢に応じた「早寝、早起き」ができていない → 64% (63%) ・ 家でゲーム機等の約束を守っていない → 63% (66%) ・ 宿題を忘れずにする → 82% (76%) * 年間を通じて変化があまりなく、継続した指導を積み重ねていくことが必要
《地域》 ⑤各学年が学期に1回以上企画する人材活用の学習活動に積極的に参加し、子どもたちへの感想を書く	各学年、次のような人材活用の学習活動を実施 ・ 昔の遊び体験 (1, 2年) → 9名 ・ デザイン画 (3年) → 1名 ・ 昔の道具体験 (3年) → 2名 ・ 読み聞かせ (1~6年) → 8名 感想を書いてくれた方 12/20 60%

達成指標	達成指標への接近状況
由布市QU調査において、非承認群を15%以下にする。(満足群を70%以上にする)	◇Q-U調査 (2学期) の結果より ○非承認群 → 19% (17.3%) ○満足群 → 49% (46%) * 両方ともに微増
児童アンケートで、90%以上が「学校が楽しい」と回答する 行事や活動での、めあてに対する振り返りについて100%を達成する	◇子どもアンケートより ・ 学校が楽しいと思う → 80% (低→94%、中→85%、高→63%) (86%、低→94%、中→97%、高→69%) ◇保護者アンケート → 79% (低→87%、中→79%、高→73%) (75%、低→86%、中→65%、高→76%) * 高学年は、〈活動推進の立場の難しさの実感〉、〈今までの自分の姿を素直に見つめた〉 ◇行事や活動のめあてに対する振り返り ※詳細は (各学年データ) は別紙参照 ・ 縄跳び大会→98%、6年生を送る会→99%、児童集会活動→100%

次年度に向けて

① 生活研における、子どもとらえの出し合いと共通理解は確実にできてきている 生活研の協議の結果、関係機関と連携した指導や支援も一歩ずつ進めていくことができている → 次年度も継続していく 行事や活動後のめあてに対する振り返りを、今後も確実に実施していく必要がある 児童のめあてに対する振り返りは、達成度100%を目指すために、児童にめあて達成に必要な具体策を必ず考えさせておき、振り返りの中で達成感を味わわせることを大切にする
② 各クラスで実践された「マンネリ化を防ぐ具体例」は、 → 今日○人以上のよいところを見つけよう 掃除時間内に見つけよう場面を決める 教師側から見つけた例をあげてみせる 等々 * 行事や集団活動の際に、めあてにそって見る視点を示し、振り返りをさせる中で、それぞれの頑張り屋よかったところを見つけさせることに重点をおく
③ Q-U調査結果は大きく変わることはなかったが、児童の意識の中に「相手の気持ちを考えた言動」が少しずつ定着してきている実感があるので、次年度も引き続き生活目標の中に位置付け、各クラスで具体化し、実践と振り返りを大事にさせていく必要がある * 次年度は生活目標の提案を、必ず「なかよしめあて」「あいさつめあて」で設定するのではなく、実態に即して柔軟な提案にさせる
④ 「生活リズムがんばり表」の取り組みについては、家庭での取り組む意識をしっかりと高めた状態で実施していく工夫がまず必要になる。 次年度当初の取り組みスタートの際に、PTA組織と学校で、各家庭の意識を高めて「生活リズムがんばり表」に取り組んでいくための工夫点を協議・明確化して実践していく
※ 児童及び保護者に向けた「情報機器 (ゲーム機含む) の取扱い」に関する講演会等を、今後実施していく